

KANAGAWA



一般社団法人 神奈川県建築士事務所協会

URL <http://www.j-kana.or.jp/>

E-mail info@j-kana.or.jp

2014 年
3 月号

VOL.389



オフィシャルウェブサイト (会員ページ) 情報

○会報KANAGAWAをフルカラーにて
掲載中

○会員ページへは会員番号でログイン
してください



目 次

① 会報「KANAGAWA」が生まれ変わります。

② 旅行記

③ ④ 建築探訪

⑤ ⑥ 委員会活動報告

表4 事務局便り
編集後記



会報「KANAGAWA」が生まれ変わります。

広報情報委員会

1 会員の皆様、会報「KANAGAWA」を毎号お読みいただき誠にありがとうございます。また、支部活動報告、会員作品紹介や講習会参加報告等、ご寄稿へのご協力につきましても、心より感謝を申し上げます。皆様のお力添えで本日まで発行を続けてまいりました。

この度、広報情報委員会では、内容・発行回数等を全面的に見直し、今まで以上に会員の皆様に様々な情報提供を行い、一般の皆様にも読んでいただけるような公益性を持ったバラエティに富んだ誌面作りを目指し、会報のリニューアルを行うことといたしました。

また、会報リニューアルに伴い、発送方法を変更させていただきます。梱包方法を従来の浅黄色の封筒からPP素材の透明なパッケージに変更し、会報が届いたことが一目で分かるように工夫をいたしました。（DMソリューションズからの発送となります）

新会報「KANAGAWA」は平成26年5月号より登場いたします。お手元にお届けするまで今しばらくお待ちください。

【主な変更点】

- ・表紙デザインが新しくなります
- ・発行回数が年6回になります（奇数月発行）
- ・カラー印刷になります（表紙・本文の一部）
- ・「会員仕事紹介」「旅行記」など、会員の皆様からご寄稿いただく企画ページを設けます

【神事協情報メール／ファックスのご案内】

発行回数が隔月化となりますため、従来同封をさせていただいておりました「講習会開催案内（受講申込書）」につきましても隔月のお届けとなります。ご不便をおかけすることとなりますが、今後は講習会の情報につきましては、ホームページ「講習会・セミナー情報」およびメールリングリスト「神事協情報メール」にてご確認をお願いいたします。

また、合わせて「神事協情報ファックス」として、ファックスでのご案内も開始させていただきますので、ぜひご利用ください。（平成26年4月よりサービスを開始。ご案内は随時となります。）ご希望される方は、大変お手数ではございますが本号に同封いたします「神事協情報メール／ファックス申込書」のご提出にご協力をお願いいたします。

旅行記「出雲大社・松江城・ 玉造温泉と足立美術館」

横浜支部 有限会社エム設計 森 雄治

昨年10月出雲大社に参拝して来ました。出雲大社の式年遷宮は伊勢神宮のような大規模な遷宮ではなく平成20年から5年間の歳月と80億円の事業費をかけ、ご本尊を一旦仮本殿に移っていただき、御屋根葺替え・修理工事が主な工事のようです。出雲大社の感想は、静寂のなか心が洗われる気持ちにさせられると言えばよいでしょうか。当日は金曜日ということもあり写真のように参拝客もあまり多くなく、落ち着いた気持ちになり、境内もそれほど広くなく散策するのも手頃な感じがしました。歴史に疎く大国主命と言われても知識不足で理解できませんが、なんとなくそのような世界に入り込んだような気にさせられ、日本の歴史の深さを感じさせられました。



出雲大社

出雲大社の前に松江に一泊し街の散策と、松江城を見学しました。松江の街は、松江城の周りに堀を巡らしていますので非常に趣のある町並みで、風情を感じられました。驚いたのは人が少ないのに昔からの歓楽街には飲み屋が非常に多くどこに人がいるのかと思い聞きましたら、皆車で来るようで歩いている人はあまり見かけませんでした。建物の作りも面白く間口に比較して奥行が深く中庭を設ける造りで、解体した建物の隣のビルには壊した建物のフォルムをわざと残し昔の建物の名残を残していました。



写真上：松江城

写真下：松江の町、古い建物を解体したあとの隣のビル

最後に玉造温泉に泊り足立美術館に行ってきました。米国の日本庭園専門誌2013年日本庭園ランキングが発表され、「11年連続庭園日本一」に選ばれた！そうです。庭園も見事でしたが、収蔵品も横山大観と北大路魯山人ばかりで圧倒されました。



足立美術館

2011年の厳島神社に続き中国地方の旅でしたが、日本の良さの一端を味わえて非常に楽しい旅をすることができました。何分仕事と家庭のいろいろや懐具合もあり、後ろ髪を引かれる思いで米子空港から帰途につきました。

建築探訪

海老名市「食の創造館」

海老名支部 株式会社加藤建築設計
加藤 昌義

車で海老名市役所を右手に前を通り過ぎ、南方向へまもなく、右側に海老名市「食の創造館」が見えてきます。

この建物は学校給食の調理に限定した施設ではなく、災害時の炊き出し対応、会議室や調理実習室の一般開放なども視野に入れた施設です。

老朽化や耐震性の面で課題のあった、市内2か所の学校給食センターを廃止し、市内12（自校式の東柏ヶ谷小学校を除く）小学校へ給食の提供をはじめ、学校給食や炊き出しの他、食育拠点としての活用や幼稚園への給食提供、卵や乳製品を除いたアレルギー食の調理に対応しています。

■施設の主な特徴

①徹底した衛生管理

コンテナの配送と回収の分離、準備室から調理室・洗浄室への同線確保などの徹底の他、衛生的な環境を維持するドライシステムも採用。また、エアシャワー、自動ドア、自動水栓、衛生レベルに応じた床の色分けなどにより、衛生管理を徹底しています。

②見学用通路を設置

2階通路からは、給食調理室の様子を見ることができ、子供たちの食教育にも有効活用されます。

③炊出しは3000食対応

災害時に自家発電装置などを使用して炊き出しを行うことができます。おにぎりや汁物など3000食程度の対応を想定しています。

炊き出し拠点として機能できるよう、主要熱源は都市ガス、炊飯システムはLPガスにするなど、インフラが途絶えた場合のリスクにも備えています。



海老名市「食の創造館」外観

【外観・太陽光発電設備】

南側外壁に発電効率の良い結晶系シリコン太陽光電池モジュールを設置し、最大5Kwの電力を発電します。施設の一般照明の電力として利用し、1階のエントランスホールには発電状況を表示するモニターを設置して、来館する子供たちの環境学習に役立てます。



見学の様子

【2階見学通路】

給食調理室の様子を見ることができます。



8000食提供可能

【回転釜が並ぶ給食調理室】

煮炊き釜は調理能力最大8000食を可能とするため釜10基とグランドケトル2基を設置しています。災害時には、自家発電により約半分の釜を使用することができます。



調理実習室



研修用会議室

【LED照明を設置した調理実習室】

施設2階の調理実習室、会議室、食堂にはLED照明を採用し、消費電力の削減とランニングコストの低減を図っています。

■施設の概要

【設計者】海老名市

【所在地】海老名市中新田4-12-2

【構造】鉄骨造 2階建て

【設備】都市ガス、LPガス、自家発電設備
(200KVA)、大型受水槽(150トン)

【インフォメーション】

会議室・調理実習室の一般開放

食に関する講習や研修のために会議室や調理実習室が解放されています。会議室と実習室を合わせて使用することもできるようになっています。

(問合せ：食の創造館 TEL.046-231-2151)

【コラム】「学校給食今昔物語」

近年よく目にするようになった「食育・食教育」の定義は『「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てること』とされ、その動きは学校給食などにも大きく影響を与えています。

例えば、学校給食によく使われていたアルマイト製の銀色の食器は、子供が乱暴に扱っても壊れにくく、軽く運搬・収納が楽な上になんといっても安価であるため広く利用されていました。しかし、その利点に反し、熱伝導性がよいため汁物などを入れた場合には熱くて手に持つことができず、いわゆる「犬食い」をしてしまう児童が多く問題となりました。現在では「乱暴に扱うと食器は壊れてしまう」ことや「食器をきちんと手に持ち正しく食べる」ことなどを学んでもらうために、磁器製の食器を導入する学校も増えています。

栄養バランスが考えられた食事を提供し、健やかな成長をサポートすることは基より、クラスの人数分用意された給食を児童の手により配給・配膳することにより、責任意識やバランス感覚を養うなど学校給食から学ぶことは多々あるようです。

委員会活動報告

【「住・緑・家」運営専門委員会】

委員長 大和田 優（藤沢支部）

平成18年1月18日に神奈川県木材業協同組合連合会との間で木造住宅コンペシステム「住・緑・家」を業務提携し運営が開始されてから8年の歳月が流れました。その間に住宅コンペ開催数は8回、平成20年に自治会館第一号となる平塚市諏訪町会館建設コンペから現在までに自治会館コンペ開催数は6回を数えました。また、実際に建設に至ったものは住宅では数件程度ですが、自治会館においては100%コンペ当選者が設計監理委託契約を締結し建設されています。

（自治会館6回の内訳：竣工済3件、実施設計中1件、設計者選定済1件、2次審査中2件：平成26年2月22日現在）この実績結果から、建設過程において常に透明性が求められる自治会館建設事業においては、設計者選定システム「住・緑・家」が非常に適しているのではと容易に想像できます。

さて、本年度の委員会では、主として「会員の皆様の業務に繋がる方策の一つとしてのコンペ開催」および「開催数の増加」を如何に達成するかを議論してきましたが、正副会長並びに各委員長の御助言を賜りながら下記の活動方針（案）をまとめることができました。

平成26年度「住・緑・家」運営専門委員会活動方針（案） 抜粋

■神事協へ照会の全てのコンペ（用途・規模・構造種別等は問わない）は「住緑家」運営専門委員会が運営する。

■現行の「住・緑・家」登録料（15,000円／2年間）は廃止し、全ての神事協会員がコンペ等にエントリーすることができる。（但し、一定の条件は設定する）

■コンペ当選者のPRを積極的に行い、コンペ参加者数の増加・開催数の増加を目指す。

現在、横浜市内の2つの自治会から照会を受けています。1つは2月1日に、もう1つは2月22日（この原稿を書き始める1時間ほど前ですが・・・）に「住・緑・家」の説明をするため自治会館建設委員会を訪問させて頂きました。おそら

く4月には「自治会館コンペ」を2つ開催することができると思います。その際には、より多くの会員の皆様にエントリー頂けるよう、委員一同力を合わせて頑張っていきたいと考えております。

【景観・まちづくり専門委員会】

委員長 寺本 勉（相模原支部）

平成25年度は「景観・まちづくり専門委員会」と改称し、気持ち新たに活動に取り組んで参りました。当委員会における活動目標は、協会にて「景観整備機構の指定」を受けること、そして、景観行政団体からの受託事業や自主事業に取り組み、業務として活動が維持展開できる仕組みを構築し、よりよいまちづくりをだれもが楽しくできるようにすることにあります。そこで目標実現に向けて、今年度は下記3項目の取り組みを実施致しました。

①専門家育成のための勉強会「まちづくり・ひとづくり・しごとづくり」（景観整備に関する受託事業者名簿（仮）の整備）

■平成25年7月24日開催

講師：静岡県建築士会景観整備機構副代表塩見寛氏（景観整備機構の活動実績・立ち上げ方・行政、専門家、住民の役割連携について、参加者によるワークショップ）

■平成26年2月28日開催

講師：ひと・まち鎌倉ネットワーク代表理事熊倉洋介氏（景観整備機構の活動実績・事例紹介、参加者によるワークショップ）

②行政とのコネクション＆連携（指定可能な景観行政団体の創出）

・勉強会参加への働きかけ
・景観・まちづくりに関するアンケートの実施（7カ所の市町より景観整備機構の指定が可能との回答：横須賀市、相模原市、平塚市、茅ヶ崎市、伊勢原市、南足柄市、湯河原町）

③協会における景観整備機構組織構築にむけて

・各支部へのキャラバンの実施

（景観整備機構のご説明、および各支部活動情報ヒアリング。行政アンケート結果を踏まえて順次実施。）

相模原支部、伊勢原支部、横須賀支部、県西支部

また、当委員会発足時に発生した東日本大震災に対しての取組みとして、神奈川県委託業務「応急仮設住宅調査」は三期連続で受託を戴いており、今年度は実際の用地候補を6市町と協議をしながら住棟配置計画シミュレーションを実施。

更に、当委員会で企画実施した「応急仮設住宅コンペティション」においては、1月21日二次審査、3月22日表彰式および東京大学大学院大月敏雄准教授による特別講演を実施、その後、最優秀賞「湘南三浦建築設計協会」の皆様は、提案より実際にプロトタイプ建設イベントを実施する等、更に具体的な取り組みへとつなげて頂いており、コンペティションが大いに活かされています。

平成26年度は景観整備機構の指定および業務受託と自主事業展開を目標として活動して参ります。各支部との連携をはかり、会員の皆様と共に楽しくまちづくりをしたいと考えております。ご興味のある方はぜひ積極的にご参加ください！

本コンペティションについては会報かながわ（平成25年3月号）、日事連（平成25年6月号）掲載記事参照

湘南三浦支部「住民参加で建設できる」応急仮設住宅プロトタイプ建設については会報かながわ（平成25年10・11月号）掲載記事および下記サイト参照

http://www.j-kana.or.jp/k-compe/shounan_kasetsu.pdf

【マンション等の大規模修繕業務対応専門委員会】

委員長 永島 優子（川崎支部）

当委員会は、本年度より、専門委員会として立ち上がったばかりです。私も初代委員長として、何とか、形をつくっていきたいと考え、委員の皆様と奮闘しています。そんな委員会ではありますが、委員会の紹介を「5W2H」に沿って整理してみました。

■いつ「When」平成23・24年度は、企画業務委員会マンション部会として活動していました。平成25年度より業務支援委員会の下部組織の専門委員会として位置づけられ、委員会は月1回程度の頻度で開催しています。マンション等の大規模修繕に関する相談窓口を設

けており、予約制で行っています。

■どこで「Where」委員会も相談窓口も、神事協会議室で行っています。（委員会終了後の懇親は、毎回、関内でやっています。）

■だれが「Who」椋担当副会長、福田業務支援委員長、委員長の元、委員長、副委員長2名、委員6名で構成されています。

■なにを「What」委員会のコンセプトは、以下の通りです。

- （1）マンション管理組合等の相談（大規模修繕、長期修繕計画等）に対応する。
- （2）この業務に必要な知識を得るための研修を行い、登録事務所のスキルアップを図る。
- （3）この業務に関連した賛助会との連携を図り、ビジネスモデルを構築する。

■なぜ「Why」神事協に、マンション改修に関する調査者や設計監理者を紹介して欲しいとの相談が増えてきたため、まずは紹介しやすいように、この業務ができる設計事務所を名簿にしたのがきっかけです。神事協としては、紹介、推薦する限り、研修会を受けることを条件としました。

■どうやって「How」研修会は、毎年7月と2月に実施し、受講した事務所を対象に、名簿（登録制）を作成。神事協のホームページにアップしています。マンション改修に関する相談者には、まずは、この名簿の中からお選び下さいとしたいのですが、神事協に推薦してほしいとの問い合わせが多いため、「推薦規定」をつくりました。

■どのくらい「How much／many」この推薦規定に基づき推薦した結果、業務受託に至ったマンションは、2件あります。規模の大きいマンションからの相談が多いのは、やはり、管理組合内で意見をまとめる上で、神事協という団体に、公共性を求めており、信頼が高い表れであると思っています。

今後も、その信頼を高めていくことを目標に、委員一同頑張っ参ります。賛助会様との連携も進んでいますので、今後の活動にご注目ください。

また、2月5日に開催しました講習会には、100名近くの方にご参加いただきました。ありがとうございました。

会員異動報告	
入会	
横浜支部	
一級建築士事務所株式会社ウィルウェイ 〒220-0011 横浜西区高島2-11-2 TEL.045-515-8827 FAX -	岡田 行正
一級建築士事務所のぞみ 〒244-0003 横浜市戸塚区戸塚町2833-43-309 TEL.045-864-3407 FAX.045-864-3407	望月 達也
株式会社オフィス・ワン一級建築士事務所 〒236-0051 横浜市金沢区富岡東1-6-21ダイアパレス新杉田403 TEL.045-641-6603 FAX.045-641-6604	白鳥 勝也
川崎支部	
株式会社大亀工務店二級建築士事務所 〒213-0002 川崎市高津区二子2-17-5 TEL.044-822-6090 FAX.044-833-8821	斉藤 眞弘
株式会社ティダー一級建築士事務所 〒214-0037 川崎市多摩区西生田1-11-18 TEL.044-952-2177 FAX.044-952-2162	藤井 高德
退会	
横須賀支部	
日建工業株式会社	青木 成昂
県西部	
有限会社スズキ建築設計	鈴木 浩
変更	
横浜支部	
株式会社田中建築事務所 (指定代表者変更)	神前 健 阿久津賢次
都市未来計画株式会社 (指定代表者変更)	広瀬 良一 安積 健介
川崎支部	
株式会社成建一級建築士事務所 (指定代表者変更)	常盤 孝一 堀 誠治
田中宏昌建築設計事務所 (FAX変更) FAX.044-271-7117	
海老名支部	
合同会社ウッドワークス (所在地変更) 〒243-0432 海老名市中央1-19-21 エクセレント海老名A102	
【お知らせ】…新体制により、誌面構成の見直しを行っております。	
本誌掲載記事の内容は執筆者本人の見解において記述・掲載をしております。理事協としての見解ではございませんのでご了承下さい。	

会 勢		平成26年 3 月 1 日現在			
支部名	平成25年3月末日	現在	入会者	退会者	増減
横 濱	251	254	17	13	4
川 崎	101	108	10	3	7
横 須 賀	54	51	2	5	-3
湘 南 三 浦	18	18	2	2	0
藤 沢	25	24	1	2	-1
鎌 倉	39	38	1	2	-1
茅ヶ崎寒川	19	18	0	1	-1
平 塚	23	23	1	1	0
秦 野	18	19	1	0	1
伊 勢 原	8	8	0	0	0
大和綾瀬	21	20	0	1	-1
厚 木	35	32	0	3	-3
座 間	12	12	0	0	0
海 老 名	15	15	0	0	0
愛 川	8	8	0	0	0
相 模 原	82	79	1	3	-2
県 西	48	47	1	3	-2
合 計	777	774	37	39	-2
賛助会員	79	78	4	5	-1

※退会報告等の状況により会員数は常に変動しております。

3月の行事予定	
3月4日	杭頭免震見学会 会場:東京、千葉
5日	法制委員会
6日	総財務委員会
	神奈川県鉄構業協同組合共催 鉄工所見学会 会場:海老名
11日	業務支援・企画合同委員会
	「住・緑・家」運営専門委員会
12日	指導委員会
13日	正副会長会
	理事会
17日	建築物耐震改修評価特別委員会
18日	ブロック支部委員会
	支部長合同ブロック支部委員会
19日	木造専門委員会
20日	青年交流専門委員会
24日	景観まちづくり専門委員会
26日	建築物耐震改修評価特別委員会

編集後記

「トロロの住む家」(宮崎駿)は家と庭があり、庭の植物は、手入れはされるが好きなように成長している。家は内と外界を明確に遮断するドアではなく引戸です。家は完全な「個」を主張することなく地域との繋がりを求める縁側があり、おもてなし文化の応接間がある。

近代の思想は内と外を明確に分けることであり、低炭素化建築の行く末がよき文化を殺さなければと願うところです。委員会後の反省会には引戸と提灯、暖簾の似合う居酒屋が多いです。今回は雪の降る中でした。(雪で途中退席者もあり写真は全員でないです)

(川崎支部 恩田 耕爾)



かながわ 平成26年3月号 (通号389号)

発行 平成26年3月1日 (毎月1日発行)
 発行人 小林 忠志
 発行所 一般社団法人 神奈川県建築士事務所協会
 〒231-0032 横浜市中区不老町3-12
 第3不二ビル2F
 TEL. 045-228-0755
 FAX. 045-212-3807
 印刷所 株式会社 柏苑社

・担 当 副 会 長 芝 京子
 ・広 報 情 報 委 員 長 白 川 正孝
 ・広 報 情 報 副 委 員 長 宮 寺 透雄
 ・広 報 情 報 委 員 森 雄治
 ・小 泉 厚
 ・恩 田 耕 爾
 ・新 倉 良 一
 ・杉 本 勝 郎
 ・棚 橋 由 佳
 ・坪 井 教 一
 ・坂 本 歩 美
 ・事 務 局
 ・